



Vol.16

## ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた  
本田優子(札幌大学副学長)と  
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、  
その魅力をソノコ(=お便り)形式で  
語り合います。

イラスト/安田千夏

### リムセ(踊り)

リムセやホリツパ、ウポポ、ヘチリなどの  
の名称で呼ばれるアイヌ舞踊は、地域  
毎にいろいろな踊りが伝えられているよね。

私が初めて踊ったのはイヨマンテリムセ。霊  
送りやお祝いなどの儀礼の際に踊られたも  
ので、私の住む白老に伝わる代表的な輪踊  
り。「イヨマンテリムセを踊れたら、つくば万  
博に連れて行ってやるぞ!」という甘い?言  
葉がきっかけで、博覧会の『日本の祭り』に  
招待された白老民族芸能保存会メンバーの  
一人として参加。三日間の猛特訓を受けて  
臨んだ初舞台は動きを真似るので精一杯で  
したが、今では私も舞踊歴二十八年になるん  
だよな。

力強く足を踏み鳴らし、刀を振り、悪神を

威嚇し払う、厳粛にして勇壮な踏舞や剣舞  
から、二人の女性が男性を取合う滑稽で娛  
楽性の高い踊りまで、アイヌ舞踊はバラエティ  
に富んでるよね。動物の仕草や植物の動  
き、狩りや作業の様子をモチーフにした踊り  
も多く、鶴舞では、一枚多く羽織った着物を  
ツルの羽に見立て優雅な羽ばたきを表した  
り、バッタの踊りでは、両手を前に突出し、膝  
や背で擦り合わせる動きは躍動感があつてリア  
ルだし。他にもフクロウやキツネ、ネズミ、ク  
ジラ、トドマツなど、地域によって踊りの内容  
も特徴があつて面白いよね。

リムセって結構、跳ねたりして足腰のいろん  
な筋肉を使うので、私はストレッチをしてか  
ら踊るようにしていますが、優子さんは?

そうそう、ストレッチは絶対大事!  
二年前、本学ウレシバクラブ主催のウ  
レシバフェスタでのこ

と。大きなホールの舞  
台で学生たちと一緒に  
にフィナーレを飾る踊  
りを踊っていたの。

「ああ、今年も大成  
功!」って思った瞬  
間、バーンって音にと  
もに踵で何かを蹴つ  
たような衝撃——。



白老地方  
サロルン  
チカマリムセ

ツルの  
踊り

変だなと思いつつ右足を床に付けた途端、フ  
ニヤツと倒れ込んだの。なんと華々しいフィナ  
ーレ!舞台の上でアキレス腱切っちゃった  
(笑)。

この時踊っていたのはチャッピーヤク。アマツ  
バメが空中をヒュンヒュン飛び交う姿を模し  
た踊りと言われています。それだけに、軽快  
で素早い動きが要求されるの。この踊りが大  
好きな私は、誰よりも軽やかで楽しそうに  
踊ると言われたものだったのに: 情けなや。

私が二風谷に移り住んだ九八三年当時、  
ポピュラーな踊りとして地元で伝承されてい  
たのは、このチャッピーヤクとハララク(ツルの  
踊り)の他、数種類だけだったの。アイヌ文化  
が否定され、二風谷に限らず多くの村々で、  
文化伝承が困難な時期があつたのです。そ  
れで、一九五〇年代の記録フィルムに基づき、  
子どもたちやフチ(おばあさん)たちと踊り  
の復元活動を行い、随分レバ

ートリーが増えました。

けれども、生活様式が大  
きく変化した現代の若者た  
ちが、アイヌの伝統的な動き  
を「美」のレベルで体得する  
ためには、相当な努力が必  
要。ウレシバクラブの学生た  
ちが真剣に取り組んでる  
姿、お見せしたいな。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。  
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。  
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。